

ヨシノ シュウジ

吉野 秋二

文化学部・准教授
博士(文学)／京大

主な研究業績

【著書(単著)】

●『日本古代社会編成の研究』(塙書房、2010年)

【学術論文(単著)】

●神泉苑の誕生(『史林』第88巻第6号、2005年)

●『律書残篇』の条坊記載(奈良女子大学21世紀COEプログラム古代日本形成の特質解明の研究教育拠点報告集Vol.14『古代都市とその形制』、2007年)

●京の成立過程と条坊制(館野和己編『古代都城のかたち』、同成社、2009年)

●小野妹子—推古朝の外交と対氏族政策(鎌田元一編『古代の人物第1巻日出づる国の誕生』、清文堂、2009年)

●古代東北の「調役」と雑徭(栄原永遠男・西山良平・吉川真司編『律令国家史論集』塙書房、2010年)

●長岡宮「西宮」・「東宮」と嶋院((財)向日市埋蔵文化財センター『向日市埋蔵文化財調査報告書』91、2011年)

●平安前期の広隆寺と周辺所領(『古代文化』第64巻第3号、2012年)

●「京の雑徭」(『日本歴史』第782号、2013年)

研究テーマ

日本古代都市史研究

概要

私は、日本古代史、特に身分制論・社会集団論・徭役制論といった分野で研究を進め、2010年2月、その成果を『日本古代社会編成の研究』(塙書房)として発刊した。本研究は、それに続くもので、二つの柱からなる。一つは都城制研究である。私は、著書に集成した社会経済史分野の研究成果とは別に、禁苑論、条坊制論といった日本古代都城に関する学術論文を執筆している。本研究は、これらを発展させ、長いスパンで具体的かつ体系的に、日本における古代都市の成立と展開を研究する。最近では、広隆寺周辺地域などを対象に、平安京近郊の地域社会の形成を復原する試みに着手している。

もう一つは、古代都城遺跡から発掘される出土文字資料(木簡・墨書土器)に関する研究である。私は、(財)向日市埋蔵文化財センター、(財)京都市埋蔵文化財研究所などで出土文字資料の解読作業に従事した経験があり、既に数本の学術論文を執筆している。2012年度は、平安前期の平仮名が書かれた墨書土器の調査にも取り組んだ。今後も、さらなる前進を図る予定である。日本の古代都城は、世界史的に見ても、一次史料に恵まれた稀有な研究環境にある。その全貌を解明し、国際的視座に立った古代都市の比較研究につなげたい。

応用分野

前近代都市史研究、比較都市史研究、地域史研究、歴史資料論

共同研究へのニーズ

日本古代史、特に都城制研究は、考古学・国語国文学・歴史地理学などとの重厚な学際的研究の蓄積をもつ。また京都産業大学は、日本文化研究所の設置が象徴するように、日本文化・京都文化の研究・普及に大学を挙げて取り組んでいる。観光学など社会科学分野との連携も含め、共同研究のニーズは高いと思われる。